

川崎市麻生区の湿地から発見された2種の小型甲虫

雛倉正人*

Two small coleopteran insects discovered from a marsh in Asao Ward, Kawasaki City

Masato Hinakura*

はじめに

シベリアヒゲナガケシキスイ *Platamartus jakowlewi* Reitter は、幼虫がショウブ *Acorus calamus* L.花穂の中で生育し、ショウブの受粉に関与していることで生態的に注目されている体長 3mm 前後のヒゲボソケシキスイ科甲虫である (Funamoto *et. al.*, 2020; 雛倉, 2025)。ショウブは、古来日本では端午の節句の菖蒲湯などに用いられ、人の暮らしと密接な植物である。筆者は、これが改めて川崎のどこにあるか興味を持った。麻生区はるひ野のよこみね緑地には、川崎市内では珍しい湧水を伴う湿地があり、生田緑地に分布しない動植物の生息も見られる。筆者はここでシベリアヒゲナガケシキスイの発見を果たしたので、記録しておきたい。また、同時期に、多数のキヌツヤミズクサハムシ (スゲハムシ) *Plateumaris sericea sibirica* (Solsky) に混じって、神奈川県 (滝沢, 2018) から未知のフトネクイハムシ *Donacia clavareau* Jacobson を見出したので、あわせて記録する。

採集記録

シベリアヒゲナガケシキスイ *Platamartus jakowlewi* Reitter, 1892

1♂, 麻生区はるひ野 (黒川よこみね特別緑地保全地区), 18. IV. 2025, 雛倉正人採集 (図 1)

フトネクイハムシ *Donacia clavareau* Jacobson, 1906

1♀, 同地, 24. IV. 2025, 雛倉正人採集 (図 2)

シベリアヒゲナガケシキスイは発見時交尾しており (図 3)、雌はリリースした。フトネクイハムシも 2025 年 4 月 15 日に撮影していたが (図 4)、スゲハムシと思っていた個体を見直すと違和感に気づき、改めて標本を採集した。フトネクイハムシは腹節の形態や前胸の微毛などにより、近似種とは明瞭に区別することができる (林, 2012)。両種の標本は川崎市青少年科学館に収蔵予定

である。なお、本報告で挙げた甲虫の学名は、ウェブサイト日本列島の甲虫全種目録 (鈴木, 2025) に、植物の学名は、「BG Plants 和名-学名インデックス」 (YList) (米倉・梶田, 2003-) に従った。

考察

シベリアヒゲナガケシキスイは川崎市から記録がなかった種類である。筆者のもとに大和市や横浜市の伝聞情報があるが、本稿執筆時点で未発表、神奈川県昆虫誌 2018 では未記録である (平野, 2018)。東京都本土部ではレッドリストに選定されており、当初沖積低地に分布の中心があると考えられていたが、丘陵の谷戸湿地で発見された (雛倉, 2025)。しかも、同所的にシベリアユミアシケシキスイ *Sibirhelus corpulentus* (Reitter) という類似種が生息することがある。後者の雌黒化個体は前者と外見がよく似ているため、筆者は両者の形態を既報で示した (雛倉, 2025)。

宿主植物のショウブは、花穂が昆虫に食べられる一方で、昆虫により種子が生じるという生態は興味深い (Funamoto *et. al.*, 2020)。筆者は、生田緑地の初山地区 (宮前区) においてもショウブを見出したが、花穂からヒゲボソケシキスイ科甲虫を見出すに至っていない。ショウブはかつて身近な草本であったが、都市開発や農業形態の変化により、昨今は珍しい植物になっており、一方では、自然生態を配慮した公園などに植栽されることもある。

フトネクイハムシは、ウキヤガラ *Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) Soják subsp. *yagara* (Ohwi) T.Koyama やフトイ *Schoenoplectus tabernaemontani* (C.C.Gmel.) Palla を宿主植物とし、幼虫はこれらの湿生植物の根について成長する (林, 2012)。よこみね緑地にはフトイが生えており、これは近年植えられたものでなく、緑地開設の頃からあったということである。神奈川県には昆虫誌 2018 の時点で、絶滅種も含めて 5

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

種類のネクイハムシ類が記録されていたが(滝沢, 2018)、キアシネクイハムシ *Donacia bicoloricornis* S.-H. Chen が横浜市鶴見区から追加され(荻部, 2020)、本種を加えて7種類になった。いずれも湿地や池の乏しい神奈川県では、衰退しつつある種ばかりである。

おわりに

今回の事例は、改めて川崎の湿地の貴重さを再認識させられるものだった。しかもそれらの生物多様性を後世に残すためには、新知見も含めて、植物と動物の種の繋がりについて、深く知らなければならない。微小で同定の難しい種類は、裏付けとして地域の博物館に現物(標本)があることも、重要と考えられる。



図 1. シベリアヒゲナガケシキスイ



図 2. フトネクイハムシ



図 3. ショウブ花穂とシベリアヒゲナガケシキスイ



図 4. 野外のフトネクイハムシ

謝辞

よこみね緑地の湿地帯は、一般人の生物の持ち出し・持ち込みが禁止されているが、水辺のある里山を守る会の窪田迅郎氏、織野章氏には、調査の便宜を図っていただき、当地の環境についてご教示を賜った。また、ホシザキグリーン財団の林成多博士には、ハムシの画像を確認頂いた。ここに改めてお礼申し上げたい。

引用文献

Funamoto, D., T. Suzuki & S. Sugiura, 2020. Entomophily in *Acorus calamus*: implications for brood-site pollination mutualism in basal-most monocots. *Ecology* **101** (9): e03089 (Online journal).

林 成多, 2012. 月刊むし・昆虫図説シリーズ 2 日本のネクイハムシ, 96pp., むし社, 東京.

雛倉正人, 2025. 東京都多摩地区でシベリア
ユミアシケシキスイを発見. 神奈川虫報
(216): 69-71.

平野幸彦, 2018. ヒゲボソケシキスイ科. 平
野幸彦 編, コウチュウ目. 神奈川県昆虫
誌 2018, [II]: 440, 神奈川昆虫談話会, 小
田原.

苅部治紀, 2020. 神奈川県初記録のキアシネ
クイハムシを横浜市で採集. 神奈川虫報
(201): 87-88.

滝沢春雄, 2018. ハムシ科. 平野幸彦 編, コ
ウチュウ目. 神奈川県昆虫誌 2018, [II]:

534-568, 神奈川昆虫談話会, 小田原.

インターネット情報

鈴木 茂 online. 日本列島の甲虫全種目録
<https://japanesebeetles.jimdofree.com/%E7%9B%AE%E9%8C%B2/>

(2026年1月5日参照)

米倉浩司・梶田 忠 (2003-) online. BG Plants
和名ー学名インデックス」(YList)
<http://ylist.info>

(2026年1月5日参照)